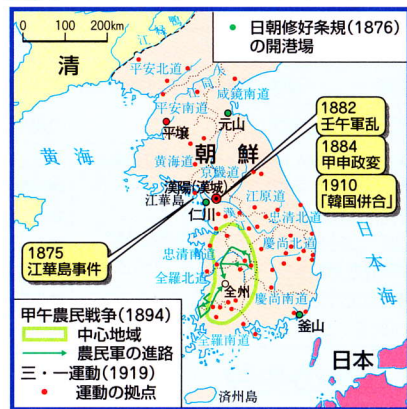


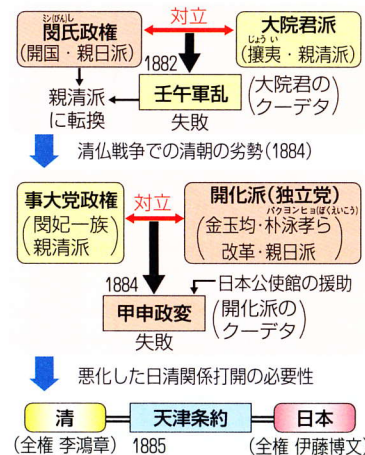
1 日本の朝鮮侵略 (P223年) 赤字: 日本の動き

| | |
|--------|--|
| 朝鮮 | 1860 崔濟愚, 東学(西学[キリスト教に対抗])創設 |
| | 1874 台湾出兵 |
| | 1875 江華島事件 |
| | 1876 日朝修好条規(江華条約), 朝鮮の開国 |
| | 1882 壬午軍乱(大院君派兵士のクーデタ) |
| | 1884 甲申政変(金玉均ら開化派[独立党]のクーデタ) |
| | 1885 福沢諭吉, 「脱亜論」を説く |
| | 天津条約(朝鮮からの日清両軍の撤兵・以後の出兵の際の事前報告) |
| | 1894 甲午農民戦争(東学党の乱・指導者: 全瑛準) |
| | 日清戦争(~95) |
| | 1895 下関条約, 清からの独立(清の宗主権放棄) |
| | 閔妃殺害事件 → 排日論高まる |
| | 1896 反日派クーデタにより開化派(親日派)政権崩壊 |
| | ロシアの影響力強まる |
| | 独立協会結成 |
| 大韓帝国 | 1897 大韓帝国と改称, 「光武改革」着手 |
| | 1904 日露戦争(~05) |
| | 第1次日韓協約(←開戦直後の日韓議定書) |
| | 1905 ポーツマス条約(日本による韓国の指導権) |
| | 第2次日韓協約(韓国保護条約)(乙巳保護条約) |
| | (日本, 外交権掌握=韓国を保護国化) |
| | → 「皇城新聞」などの抗議 |
| | 1906 統監府開庁(初代統監: 伊藤博文) |
| | 1907 ハーグ密使事件(ハーグの万国平和会議への韓国皇帝の提訴) → 高宗退位 |
| | 第3次日韓協約(日本, 内政権を掌握) |
| | 反日義兵闘争・愛国啓蒙運動(中心: 新民会), 全国に拡大 |
| | 1909 伊藤博文暗殺事件 |
| | 間島協約(韓国・清国境での義兵運動取締り) |
| 日本占領時代 | 1910 韓国併合条約(朝鮮の植民地化) (P242歴史) |
| | 朝鮮総督府の設置 |
| | ○武断政治(会社令・土地調査事業など) |
| | 1914 第一次世界大戦(~18) → 日本の好景気(1915~18) |
| | 1919 三・一運動(万歳事件) |
| | 大韓民国臨時政府成立(李承晩が上海で結成) |
| | ○文化政治(産米増殖計画・北部の工業化など) |
| | 1925 朝鮮共産党結成 |
| | 1929 光州学生運動 |
| | 1931 朝鮮革命軍結成(指導者: 金日成) |
| | 1932 「満州国」建国 |
| | 1937 日中戦争(~45) → 朝鮮重視 |
| | ○皇民化政策(日本語の強制・神社参拝・創氏改名) |
| | ○徴兵制・強制連行・従軍慰安婦徴用などの実施 |
| | 1941 太平洋戦争(~45) |
| | 1945 ポツダム宣言受諾, 日本降伏 |
| | 朝鮮独立 |

2 開国以降の朝鮮半島



●開国後の朝鮮



大院君 (1820~98) 閔妃 (1851~95)

解説 大院君による壬午軍乱を鎮圧した清軍の影響で閔氏政権が親清派(事大党)に転ずると、急速な近代化を唱える金玉均ら開化派は日本公使館の支援で甲申政変を敢行するが、清軍の介入により失敗。反日政策をとる閔妃は、日本公使三浦梧楼の首謀で日本守備隊・公使館員などにより殺害された。



金玉均 (1851~94)

「義士」安重根



1909年、朝鮮の植民地化を推進してきた初代統監伊藤博文は、ハルビン駅構内において朝鮮民族主義者で抗日運動家の安重根に射殺された。逮捕された安重根は旅順刑務所に収監され翌年処刑されたが、獄中や死刑判決時における彼の誇り高き態度は日本の裁判官をも感服させたという。朝鮮民衆は彼をたたえて「義士」と呼んだ。

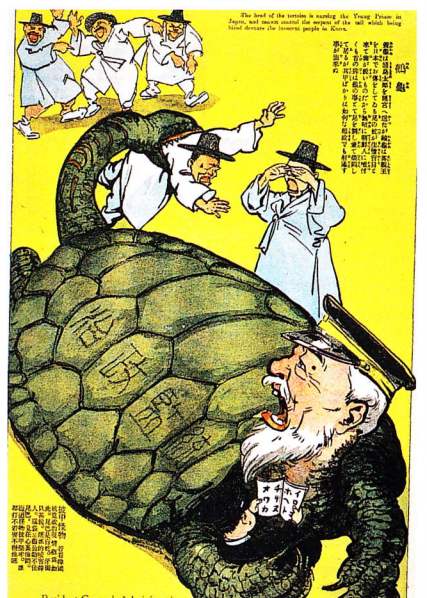


朝鮮総督府(ソウル)

朝鮮の植民地化(「韓国併合」)後の日本統治の象徴。李朝時代の宮殿「景福宮」を分断するように建てられた。



日本人の朝鮮侵略批判



伊藤博文の「鶴亀」

伊藤の「鶴亀」(正体不明の亀)が韓国皇太子を手に抱き込み、尻尾(蛇)が朝鮮民衆にかみついている。内政権を接収して侵略を強める日本を鋭く風刺している。

石川啄木(1886~1912) 自然派歌人の啄木が歌った一首「地図の上 朝鮮国にくるぐると 墨をぬりつつ 秋風を聴く」は当時の朝鮮侵略に疑念を抱く彼の心情をよく物語っている。



三・一運動(万歳事件) 朝鮮全土で延べ200万人が「独立万歳」を叫んだこの運動の結果、日本は武断政治にかわる文化政治を採用した。